

木の文化県構想

はじめに

私たちが培う「木の文化」とは、木が樹木から森林に、そして木材などへと、再生しながら循環するものであり、人と環境に優しく、人にとってなくてはならないものであることを深く認識し、生活に活かしていくことです。言い換えれば、人と木のより深い関わりと多様なあり方を追求し、木に対する色々な知恵を蓄積しながら、木の循環に配慮した行動を取ることが木の文化なのです。この意味で、木の文化の基本理念は「人と木の共生」と言えます。そして、こうした文化で他県にはない県土づくりを行おうとするものです。私たちは、この木の文化を培うため、「木を育てる」「木に親しむ」「木を活かす」の三つの視点から取り組みを進めます。

(1) 木を育てる

「木を育てる」とは、私たちが、樹木や森林を慈しみ、持続的に育て、健全で豊かに維持し、遺産として次代に残すことです。このために、私たちは、次の取り組みを行います。

① 人づくり

木の文化を身に付け、活動できる人材を養成するとともに、木に関わる人々の技術や伝統を次代に伝えます。また、将来を担う子供たちに木の文化が身に付くような学習環境づくりを行います。さらに、こうした人々の活動を支援します。

② 美しい森づくり

自然を残す森林と生業を行う森林を区分しながら、教育や福祉の視点をも入れた県民参加による多様な森づくりや、人工林の適正な管理による美しい森づくりなど、新たな発想によって森林を整備し、人と環境にとって最適な森林空間を創ります。また、こうした地域の取り組みを支援します。

③ 豊かな山村づくり

中山間の地域では、ランドスケープ（景観）を重視した施策を展開し、美しい山村づくりを行い、また、山村に暮らしながら森を支える人々のための産業振興や生活基盤の整備を行います。さらに、こうした地域の取り組みを支援します。

④ 木の文化遺産づくり

かけがえのない森林を子孫に引き継ぐため、自然の生態系を保っている原生的森林の保存を進めるとともに、このような木の保存区を面的につなげ、木の国土軸ができるように働きかけます。この手段として、公有林化を促進します。また、古木の保存や木造文化財の維持・再建を促進します。

(2) 木に親しむ

「木に親しむ」とは、私たちが、豊かに、健康で文化的に生きるため、森林を散策し、その中で休息し、樹木や森林や木材に触れ、楽しみ、学び、芸術・文化活動を行うことです。このために、私たちは次の取り組みを行います。

① 木心づくり

人々が、木を理解し、木に関わる創作活動などを行う木心を養えるよう、木を知り、木に学ぶ機会を創ります。また、木を素材とした芸術・文化などの振興を図ります。

② 人と情報の交流づくり

木の文化に関する総合的な情報を収集し、提供する総合情報センターを整備します。また、人と木の関係のあり方などを提案するとともに、文化の担い手を中心としたネットワークを創ります。また、都市と山村の交流をさらに促進します。

③ 木との触れ合いづくり

人々が、木の温もりを感じ、自ら身近なものとして、木を生活の中に取り入れることができるよう、木と触れ合えるイベントの開催や森林レクリエーション活動などを推進します。

(3) 木を活かす

「木を活かす」とは、樹木や森林や木材などの再生に配慮しながら、私たちが豊かに生活していくために活用することです。これらを使って、地域や街や住まいを創り、生活環境や健康を保持するなど、生活者にとって望ましいかたちで木を活かすとともに、これを資源として生業を営み、産業を興していくことです。このために、私たちは次の取り組みを行います。

① 潤いのある都市づくり

都市の生活者が潤いや安らぎを実感できるよう、都市の緑化を推進します。また、木を使って歴史性や物語性のある街並みや道づくりなどを行い、快適な都市空間づくりをします。また、地域のこうした取り組みを支援します。

② 人に優しい生活空間づくり

人の生活と密接な関係にある住まいや学校、高齢者用施設など、公共性の高い施設に率先して木材や樹木を活用するとともに、文化性が高くシンボリックな木造建築物などの建設を促進します。

③ 木の可能性の探求

森林や木材など、木に関する実証データを収集するとともに、エンジニアリングウッドや木炭など、木の新たな用途開発や研究、木を使った商品の開発など、総合的な試験研究を行います。また、こうした研究を促進するネットワークを創ります。

④ 木の供給体制の整備

木材や樹木に関わる産業の振興を図るとともに、流通の合理化によるコスト削減や商品毎に必要な量を供給できる体制を整備します。また、需要者サイドに立った木の生産体制の整備などを進め、良質で、ニーズに合った木材や樹木を安定的に供給できる体制作りをします。